



TITLE:

FDネットワーク“つばさ”の現在 (<第2部>第3回FDネットワーク代表 者会議：資料)

AUTHOR(S):

小田, 隆治

CITATION:

小田, 隆治. FDネットワーク“つばさ”の現在(<第2部>第3回FDネットワーク代表者会議：資料). 京都大学高等教育叢書 2011, 30: 148-155

ISSUE DATE:

2011-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/139345>

RIGHT:

FDネットワーク代表者会議

FDネットワーク “つばさ” の現在

2010年9月8日

山形大学 高等教育研究企画センター

小田隆治

山形大学のFDの特徴

■公開性

■共有化

「地域ネットワークFD“樹氷”」

- “つばさ”の前身
- 平成16年設立
- 山形県内の6つの国公立大学・短大による
大学間連携FD組織
- 平成16年度現代GP採択事業

「FDネットワーク“つばさ”」の構想

- ◆ 「地域ネットワークFD“樹氷”」で培ってきた大学間連携FDのノウハウを県外の大学等に拡大する。
- ◆ 受験生確保が競合しない離れた大学間で協調できる。
- ◆ 大規模なネットワークによって、共有できる教育資源を増やすことができる。
- ◆ 専門性が合致する大学間でFDを発展させることができる。

「FDネットワーク“つばさ”」

- ◆北海道・東北・関東の主に私立の大学・短大そして高専を対象。
- ◆2008年(平成20年)に設立。
- ◆当初、参加校は34校でスタートし、その後順調に増加し、現在46校になる。

「FDネットワーク“つばさ”」の事業

- ◆統一フォーマットによる「授業評価アンケート」
- ◆「FDワークショップ」や「FD合宿セミナー」の公開
- ◆「FDシンポジウム」の実施
- ◆「学生FD会議」の実施
- ◆「合同FD研修会」の実施
- ◆「ホームページ」の作成と公開
- ◆「報告書」の作成と配布

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(1)

統一フォーマットによる「授業改善アンケート」

- 北海道から関東までの大学・短大・高専14校
- 合計:270,000枚(山形大学52,000枚を含む)
- 一枚単価(集計を含む):3.28円

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(2)

FDネットワーク“つばさ”「第5回FD協議会」

- 平成22年5月22日(土)14時から、山形大学
- 31大学等、54名の参加(山形大学7名含む)
- 新規加盟校の稚内北星学園大学(一番近い大学はサハリンにある)の参加
- 第一部の議題:本年度の事業について

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(3)

「第5回FD協議会」の第二部： FDワークショップ「“つばさ”の可能性を探る」

■6人×8班でグループディスカッション、全体発表

■課題： ①今年度、来年度に実施したいFD/SDの内容
②5年以内に実施したいFD/SDの内容
③理想的な大学間連携のあり方

■ワークショップの評価：4.97(高い満足度) (ポストアンケートによる)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(4)

山形大学「第10回FD合宿セミナー」

■平成22年8月2日(月)～4日(水)、1泊2日を2回実施

■授業設計、シラバスの作成、コーチング、プレゼンテーション

■青森から岡山まで全国40大学等、65名の参加(山形大学22名含む)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(5)

山形大学「第12回FDワークショップ」

■平成22年8月6日(月)10時～16時半

■基調講演:「教育から学習へ:高等教育のパラダイム転換」
神戸大学 川嶋太津夫 教授

■ラウンドテーブル:①「基盤教育における科学教育」
筑波大学 小笠原正明 特任教授
②初年次導入科目の成果と課題
③学生主体型授業の冒険

■北海道から九州まで全国30大学等、87名の参加(山形大学42名含む)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(6)

「学生FD会議」

■平成22年8月21日(土)13時半～18時

■会場:札幌大学

■コーディネーター:梶浦桂司(札幌大学)、杉原真晃(山形大学)

■テーマ:「学生発信の大学改善～学生たちが出来ること～」

■北海道から千葉まで17大学等(北海道から9大学等)、
45名の参加(学生27名を含む)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の事業(7)

「大学間連携SD」

- 平成22年9月9日(木)9時半～18時
- テーマ:「OJTによる大学事務改善」
- 講師:小田隆治
- 北海道から沖縄まで72大学等、134名の参加

大学間連携FD/SDビデオ教材の開発

- 「あっとおどろく大学授業NG集」
- 「学生主体型授業へのアプローチ」
- 「あっとおどろく大学事務NG集」

—全国の多数の大学で利用されている—

fin.